

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、ワールドアスレティックス競技規則ならびに 2021 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2 練習会場等について

- (1) 4月28日(水) 13:00~17:00 は、メイン競技場・補助競技場を練習会場として開放する。
- (2) 練習にあたっては、競技役員の指示に従うこと。
- (3) 練習会場の入退場時は、必ずADカードを明示すること。
- (4) チューブやメディシングボール、ミニハードル、ラダー等の用具を使用しての練習は全面禁止とする。
- (5) メイン競技場での練習について

- ①トラック種目及び棒高跳・走高跳・走幅跳・三段跳を使用可とする。やり投は助走練習のみとする。
- ②レーンの使用は次の通りである。尚、逆走は禁止とする。

レーン	種 目
1・2	中 ・ 長 距 離
3~6	短 距 離
7・8	100m・110mハードル

(6) 補助競技場での練習について

- ①レーンの使用は次の通りである。尚、逆走は禁止とする。

レーン	種 目
1・2	中 ・ 長 距 離
3~6	短 距 離
7・8	100m・110mハードル

※小中高生の練習は、バックストレート側(第2・第3コーナー含む)とし、ホームストレート側は中・長距離種目の周回練習を除き使用しない。

- ②フィールド種目は走高跳・三段跳・走幅跳・砲丸投のみとする。

3 招集について

- (1) 招集所は、西ゲート外側、補助競技場への通路付近に設ける。
- (2) 招集開始・完了時刻は、次の通りである。

		招 集 開 始	招 集 完 了
トラック	GP種目	競技開始 20 分前	10 分前完了
	GP以外	競技開始 30 分前	15 分前完了
フ ィ ー ル ド		競技開始 45 分前	30 分前完了
※ 棒 高 跳		競技開始 90 分前	80 分前完了

(3) 招集の方法については、次の通りである。

- ①招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス・靴底の厚さ、スパイクピン・商標の点検を受ける。
トラック競技のみ腰ナンバー標識(2枚)を受け取る。
- ②携帯電話等、競技規則 TR6 に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
- ③競技者の衣類、物品を含むすべての広告物については『競技会における広告および展示物に関する規程』が厳格に適用される。
- ④代理人による点呼は認めない。
- ⑤各種目を棄権する場合は、招集完了時刻 30 分前までに所定の「欠場届」を競技者係に提出すること。
- ⑥招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとする。
- ⑦リレーオーダー用紙は、招集完了時刻 1 時間前までに、招集所に提出すること。提出後の変更(提出後の怪我等は除く)は認められない。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、主催者が用意したものを、そのままの大きさを胸・背部に固定すること。
ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方でよい。【競技規則 TR5.10】
- (2) トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識を指示された場所に貼り付けること。

5 競技場内への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) 競技終了後は、競技役員の手配に従いミックスゾーンを通り退場する。なお、上位入賞者は、インタビューの終了後、係員により入賞者控所に誘導され、そこで待機し、その後は入賞者管理係の手配により行動する。表彰終了後は、係員の手配により退場する。

6 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技の予選のレーン順・フィールド競技の試技順は、スタートリストに記載した順による。
- (2) トラック競技の決勝の組み合わせ及びそのレーン順は、番組編成掲示板に掲示する。
- (3) トラック競技における次ラウンド進出者のプラスの決定について、その最下位で0.01秒単位で同記録があった場合、0.001秒で着差判定をして進出者を決める。着差がない場合は抽選とする。
- (4) 抽選が必要な場合は、当該競技者にアナウンスにより連絡し、大会本部において当該競技者あるいは代理人による抽選を行う。尚、アナウンス後20分を経過しても当該競技者あるいは代理人が大会本部に来なかったときは、主催者が代行する。
- (5) タイムレースで同タイム者が出た場合、組が違っていてもすべて同順位とする。
- (6) 男女100m・110mH・100mHについては、A決勝進出者のみ表彰の対象とする。

7 競技について

(1) トラック競技について

- ① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置を使用する。
- ② レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
- ③ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ④ 競技規則 TR16により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
ただし、小学生については同じ競技者が2回行った場合、失格とする。
- ⑤ トラック競技の競技者には、招集所で透明なビニール袋を配布する。ビニール袋にマジックペンで自分の名前と番号を書いておく。
- ⑥ スタート前に脱衣した衣類は、ビニール袋に入れ、競技役員が指示した場所に置く。
これらの衣類等は、直ちに係員によりフィニッシュライン付近に運ばれるので、フィニッシュ後各自で受け取り退場する。
- ⑦ スターターの合図は英語とする。

(2) フィールド競技について

- ① 競技の計測は、すべて光波距離計測器を使用する。
- ② 助走路の外側に主催者が準備したもの、または承認したマーカーを2個まで使用することができる。
- ③ 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を記入し、招集開始時に招集所に提出する。
その後、位置を変更したい場合は、担当審判員に申し出る。
- ④ 三段跳の踏切板は、砂場から13mの地点に設置する。
- ⑤ フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の手配に従う。
- ⑥ フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチ席」を設ける。

- (3) 競技者は、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することはできない。また、勝手に競技場所を離れることはできない。

【競技規則 TR6.3】

- (4) 競技者としてあるまじき行為をした競技者には、警告が与えられ、場合によっては当該競技から除外される。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らされる。
- (5) 欠場する者は、本大会規定の「欠場届」に必要事項を記入し、次の要領で届けること。届けずに欠場した者は、日本陸上競技連盟、加入団体主催または後援する競技会に出場を認めない処置を講ずることがある。

8 走高跳・棒高跳について

- (1) バーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8～
男子棒高跳	任意の高さ	5m00	5m20	5m35	5m45	5m55	5m65	5m75	以後 5cm
女子走高跳	1m60 1m70	1m65	1m68	1m71	1m74	1m77	1m80	1m82	以後 2cm

※残っている競技者が2人以上でも、全員の同意があれば、日本記録もしくは大会記録等を超える高さにバーを上げることができる。

- (2) 公式練習について

試技順に2回行う。棒高跳は、任意の高さ及びアップライトの位置で（公式練習の説明後、担当競技役員に申告する）ゴムバーの高さは正規の高さに設定して行う。

9 競技用具について

競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外すべて主催者が用意したものを使用すること。なお、競技用具の持ち込みを希望する者は、当日競技開始1時間前までに、西ゲート横の用器具庫に申し出ること。

検査に合格した用具は預かり証の上、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。競技終了後に用器具庫で返却する。

10 競技用靴について

- (1) 競技場は全天候舗装である。
- (2) スパイクの数は11本以内で、長さ9mmを超えてはならない。また、スパイクの先端の直径は4mm以内とする。【競技規則 TR5.3】
- (3) 靴底の最大の厚さは、フィールド種目（三段跳を除く）は20mm以内、三段跳は25mm以内、800m未満のトラック種目は20mm以内、800m以上のトラック種目は25mm以内でなければならない。【競技規則 TR5.13】

11 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表は、大型映像およびアナウンスで行う。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則 TR8 に定められている時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合には、アナウンス後15分以内、それ以外は30分以内）に、競技者自身または代理人が、担当総務員を通じて、審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金1万円を添え、担当総務員を通じて、 Jury に文書で申し出る。

12 インタビュー・表彰について（グランプリ種目のみ）

- (1) インタビュー
記者席からの希望選手のみインタビューを受ける。
- (2) 表彰
①世界記録賞・日本記録賞・特別賞・各種目3位までにメダルを授与する。
②上位入賞者は、インタビューの終了後、係員により入賞者控所に誘導され、そこで待機し、その後は入賞者管理係の指示により行動する。表彰終了後は、係員の指示により退場する。

- ③各種目の1位から3位の競技者の表彰は、正面スタンド前表彰台で行う。
- ④表彰時の服装は所属ジャージを着用すること。また、アスリートビブスを前面に表示すること。
- ⑤大会 MVP1 名を選出する。

13 ドーピングコントロールテストについて

(1) ドーピングコントロール

ワールドアスレティックスアンチ・ドーピング規則および規程、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液（或いは両方）の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。日本陸上競技連盟に登録していない競技者も同様に従うこと。尚、競技会時、ドーピング検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた学生証、社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。

(2) TUE申請

禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例（TUE）”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ（<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>）、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ（<http://www.playtruejapan.org/>）を確認すること。

(3) 18歳未満競技者の親権者からのドーピング検査に対する同意書の取得

世界アンチ・ドーピング規程、同国際基準、及び日本アンチ・ドーピング規程により、18歳未満の競技者が競技会に参加する際、親権者からドーピング検査に関する同意書を取得することが必要となる。

- ①本大会に参加する18歳未満の競技者は、同意書を熟読し、署名、捺印の上、同意書の原本を大会に持参し、携帯すること。同意書は<http://www.jaaf.or.jp/pdf/doi sho.pdf>からダウンロード出来る。
- ②18歳未満の競技者はドーピング検査に指名された時に、原本をドーピング検査室にてNFR（陸連医事代表）に提出すること。提出は1回のみで、同意書の提出後に再びドーピング検査に指名された場合は、すでに原本を提出済みである事をNFRに申し出ること。会場において、原本の提出がなくとも、検査は行われるが、検査後7日以内に日本陸連事務局に原本を提出すること。

14 一般注意事項

- (1) 競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等に表示されている商標は、『ルールブックの競技会における広告及び展示物に関する規程』に示すサイズ・個数を超えてはならない。これに違反したものについては主催者で処置する。
- (2) 応急処置その他健康上の問題が生じた場合は、本部に連絡して処置を受ける。医務室は中央ホール左側に設置されている。なお、応急処置後の治療は本人負担とする。
- (3) 更衣室は、メインスタンド下に用意している。尚、更衣室は更衣のみに使用する。更衣後の荷物は各自で管理する。
- (4) 大会期間中の貴重品の保管は各自で行う。盗難にあってもその責任は負わない。
- (5) 各チームの横断幕は、サイドスタンドAゾーン中段の手すりに設置する。スタンドを含む競技場内での応援用のぼり・旗等の固定は禁止する。
- (6) 競技者に対する助力については、競技規則 TR6 を適用する。
- (7) 送付された棒高跳ポールは、国内招待選手控室（雨天練習場）で保管している。また、棒高跳ポールの返送は、競技終了後、総合案内に申し出ること。往復便への対応は、大会要項を確認すること。
- (8) 本大会は、第76回国民体育大会「三重とこわか国体」広島県代表選手選考会を兼ねる。